

# 事態の既定性と「せっかく」構文

蓮 沼 昭 子

## 要旨

本稿では、複文で使用される用法を基本にもつ副詞「せっかく」について、大規模コーパスを調査し、その構文の特徴や量的な分布状況の分析を行なった。その結果「せっかく」は、「ノニ」や「ノダカラ」のような、真偽が定まった「既定的」な事態を表す従属節と強い共起関係をもつことが明らかになった。「せっかく」は、仮定的事態を表す節には使用されにくいという先行研究の指摘があるが、コーパスには、条件の「(ノ) ナラ」節、逆条件の「テモ」節での使用例が少なからず認められた。「せっかく」がこれらの節で使用された場合、当該の事態の「仮定性」は希薄であり、「既定的」な事態と見なすのが適切であることを指摘した。

キーワード：既定性 仮定性 条件節 (ノ) ナラ節 テモ節

## 1. はじめに

「どうせ」と「せっかく」は、興味深い構文的特徴を示す日本語の副詞である。すなわち、どちらの副詞も、「タラ」「バ」「ト」の条件節内部には使用できず、使用可能なのは「(ノ) ナラ」条件節に限られるという点である<sup>1)</sup>。(1)(2)はそうした特徴を示す例である。[ ]は副詞が共起する節の範囲を示す。

(1) [せっかくパリに {\*行ったら／\*行けば／行く (の) なら}] ルーブル美術館を見たほうがいいよ。

(2) [どうせヨーロッパに {\*行ったら／\*行けば／行く (の) なら}] ビジネスクラスで行こう。

(1)(2)において、「せっかく」「どうせ」は、「タラ」「バ」節での使用は容認できないのに対し、「(ノ) ナラ」節での使用には問題がない。一方、次の(3)

では、「どうせ」は問題なく使用可能である。その理由は「どうせ」が修飾するのが条件節の事態ではなく、主節の「試合は中止になる」だからである。

(3) [どうせ「雨が{|降れば／降ったら}|」試合は中止になる]。

前稿、すなわち蓮沼(2011)では、理由接続形式の「ノダカラ」と条件接続形式の「(ノ)ナラ」の有する形態・統語・意味的な並行性を指摘し、その検証を試みた。そこでは、二つの形式の並行性を示す現象の一つとして、大規模コーパスにおける副詞「どうせ」「せっかく」と「(ノ)ナラ」「ノダカラ」の共起状況を観察し、その相関性を指摘した。また、「せっかく」と事態の「既定性」<sup>2)</sup>との間の強い有縁性の存在を指摘したが、時間や紙面の制約で詳しい考察はできなかった。

本稿では、二つの副詞のうち「せっかく」を取り上げ、次の二つの点について考察する。その第一は、「せっかく」は条件の「(ノ)ナラ」節には使用できるのに、「タラ」「バ」「ト」節にはなぜ使用できないのかという問題である。次に取り上げたいのは、逆条件の「テモ」節で「せっかく」が使用可能な理由である。一般的に逆条件は、「既定性」という概念とはなじまないと考えられているが、「せっかく」は「テモ」節にも自由に使用される。それはなぜだろうか。この点の解明が本稿の第二の目的である。

以下では、大規模コーパスに現れた「せっかく」の用例の構文的特徴と使用実態の概要を観察した上で、「(ノ)ナラ」「テモ」の節で「せっかく」が用いられた例について、「既定性」という概念と関連づけて分析・考察を試みたいと思う。

## 2. 問題の所在

「せっかく」を「見越しの評価」を表す副詞と捉え、その独特な振る舞いを最初に指摘したのは渡辺(1980)である。20年あまりを経て著された渡辺(2001)では、こうした「せっかく」の意味・構文の特徴についてさらに明示的な形で説明が与えられている。すなわち「せっかく」は「話手にとって価値あるPが実現し、それに伴って実現してPの価値を完全なものにすることの期待されるQを、Pの延長線上に見越し言葉」(渡辺2001: 32)とし、構文の上では、基本的には次のような複文形式をとり、Qには結局実現しなかった、あるいはまだ実現していない事態が続くとされる<sup>3)</sup>。

(Ⅰ) せっかく PなのにQでない

(Ⅱ) せっかく PだからQしよう

ここで注目したいのは、Pの性質に対する渡辺(2001)の次のような指摘であ

る。すなわち『P』そのものは、既実現しているか、少なくとも実現が話手によって確実視されているのが普通」であり、『P』を実現不確実な扱いで言えば、おかしい日本語になるのが普通」（渡辺2001: 35）であると述べ、次のような例を挙げている（容認判断も渡辺）。

（１）＊せっかく行っても留守だろうよ。

（２）＊せっかく訪ねて行くならいい返事をもらって帰ってきなさい。

渡辺によれば、（１）（２）の「ても」「なら」は、Pが実現不確実であったり、未実現である仮定表現であるため、Pに確定表現、確実表現を要求する「せっかく」とは「なじまない」とされる。しかし、これは事実を正しく指摘しているとは言いがたい。コーパスを観察すると、「テモ」「（ノ）ナラ」節に「せっかく」が用いられている例は、容易に探し出すことができるからである。一方、仮定条件を表す「タラ」「バ」「ト」節で「せっかく」が用いられた例は、ごく稀にしか見出せない。つまり、「せっかく」との共起関係を考える際には、条件表現の「（ノ）ナラ」と「タラ・バ・ト」との間にある本質的相違や、「テモ」節が表す仮定性の内実について、さらに掘り下げた考察が必要とされているのである。

次の３節では、大規模コーパスにおいて、「せっかく」が共起していると判断される複文接続形式の概要を観察する。そして、それに続く以後の節においては、「せっかく」が使用された「（ノ）ナラ」「テモ」節に焦点を絞り、その特徴について詳しい観察・分析を行うことにしたい。

### 3. 「書き言葉コーパス」<sup>4)</sup> おける「せっかく」の使用実態

大量の「せっかく」の実例を採集し、それが使用されている構文的な環境の調査・記述を行った研究に、小矢野（1997c）がある。この節では、小矢野の調査結果を紹介し、それと比較する形で、本稿の行った「書き言葉コーパス」における「せっかく」の使用状況と用法の分布、構文・意味の特徴を観察しておきたい。

#### 3.1. 小矢野（1997c）の調査結果の概要

小矢野（1997c）は小説や新聞から採集した458例の「せっかく」の構文的環境を分析し、その分布を数値で挙げている。＜表1＞＜表2＞は、小矢野の調査結果の数値を筆者が表に整理したものである。なお、小矢野（1997c）では、「せっかくの＋名詞」の形をとる「規定語」の用法は、考察の対象外とされている<sup>5)</sup>。

＜表 1＞ 小矢野（1997c）の「せっかく」の用法分布

連体的つきそい・あわせ文での使用例	143	31.2%
連用的つきそい・あわせ文での使用例	315	68.8%
合計	458	100.0%

＜表 2＞ 小矢野（1997c）における連用用法の内訳

まさめの関係およびそれに準じた関係	130	41.1%
うらめの関係およびそれに準じた関係	186	58.9%
合計	316	100.0%

小矢野（1997c）は、連体用法に対しても「うらめ」「まさめ」の関係の分布を観察しているが、本稿は、連用接続節における「せっかく」の共起状況の分析を主たる目的とし、連体用法は当面の考察の対象外とするため、以下では小矢野（1997c）の「連用的つきそい・あわせ文」での「せっかく」の用法を中心に観察しておきたい。

＜表 1＞で明らかのように、「せっかく」の70%弱は、連用用法の複文で使用されており、連体用法を大きく上回っている。これは「規定語」の用法を考察の対象外にしていることもその一因であると思われる。＜表 2＞は、連用用法を順接関係か逆接関係かで分類したものである。これによると、連用用法では、「うらめの関係」（逆接関係）の例が約60%で、「まさめの関係」（順接関係）の40%強を上回っていることが分かる。

次の＜表 3＞は、小矢野（1997c）で挙げられている使用形式別の用例数を筆者が集計し、表に整理したものである。表の左側が逆接関係、右側が順接関係の使用数で、「割合」は、それぞれの使用数を316で割ったパーセントの数値である<sup>6)</sup>。

＜表 3＞ 小矢野（1997c）の「せっかく」の連用用法の形式別内訳

うらめの関係およびそれに準じる関係を表す形式			まさめの関係およびそれに準じる関係を表す形式		
形式	使用数	割合 /316	形式	使用数	割合 /316
せっかく～する／したのに	100	31.6%	せっかく～のだから	62	
せっかく～しても	25	7.9%	せっかく～のだからと	8	22.2%
せっかく～して	11	3.5%	せっかく～から	3	
せっかく～ながら	10	3.2%	せっかく～のだ。	6	
せっかく～したものを	5		せっかく～ではないか	3	
せっかく～すると	3		せっかく～だし	2	
せっかく～するにはしたが	1		せっかく～ものだから	5	
せっかく～したにもかかわらず	1		せっかく～ものだ	1	
せっかく～したくせに	1		せっかく～のだもの	2	
せっかく～したけれども	1		せっかく～ので	2	
せっかく～したのだけど	1		せっかく～だもの	1	
せっかく～したまま	1		せっかく～ことだから	1	
「せっかく」で言い差したもの	1		せっかく～する	1	
文脈上、ここに入るもの	2		せっかく～のなら	5	
方言の例	1		せっかく～のならば	3	
			せっかく～するなら	3	3.5%
			せっかく～からには	3	
			せっかく～する以上	1	
			文脈からここに入るもの	1	
圧縮表現「せっかくだが」類	21		圧縮表現「せっかくだから」	14	
圧縮表現「せっかくだけれど」	1	7.0%	圧縮表現「せっかくですもの」	1	
			圧縮表現「せっかくなら」	1	
			圧縮表現「せっかくだし」	1	5.4%
うらめ関係 小計	186	58.9%	まさめ関係 小計	130	41.1%
連用用法合計				316	100.0%

### 3. 2. 「書き言葉コーパス」における「せっかく」の用法分布の概要

この節では、本稿が調査した「書き言葉コーパス」における「せっかく」の使用状況の概要を述べる。「書き言葉コーパス」で「折角」「せっかく」の文字列を

検索した結果、合計1455の使用例が抽出された。その用法全体の内訳を以下に示す。

＜表4＞ 「書き言葉コーパス」における「せっかく」の用法の分布

用 法		意味・形式	使用数		割合／ 1456
連 用 用 法	逆接的	逆接的接続形式（セッカク～ノニ／テモ等）	404		
		圧縮表現（セッカク～ダガ等）	19	423	29.0%
	順接的	順接的接続形式(セッカク～ノダカラ／ノナラ等)	284		
		状況成分（セッカク～トキニ等）	5		
		圧縮表現（セッカクダカラ等）	57	346	23.8%
	連用用法合計		769	52.8%	
言い切り用法 (単文で終止)		逆接関係に解釈できるもの	5		
		順接関係に解釈できるもの	19		
		両義的なもの	5		
		小計	29		2.0%
連体用法	セッカク～スル／シタ N ガ・ヲ・ニ等		279		19.2%
規定語	セッカクノ N		360		24.7%
旧用法 <sup>7)</sup>	旧用法		9		
不明	後件省略		3		
その他	引用、例示など		7		
	小計		658		45.2%
合計 <sup>8)</sup>			1456		100.0%

全体の傾向として、連用用法およびそれに準じる用法が過半数を占めているが、連体用法と「規定語」の用法は両方で40%を超え、かなりの割合で用いられていることが分かる。以下では連用用法を中心に考察し、＜表4＞の大分類の三段目に示した「連体用法」～「その他」の計658例は、考察の対象外とする。

＜表5＞は、本稿が分析の対象とする連用用法、およびそれに準じた用法の分布を示したものである。「逆接関係およびそれに準じた関係」の用法が、「順接関係およびそれに準じた関係」の用法を若干上回っているが、これは＜表2＞に示した小矢野（1997c）の調査結果と同様の傾向である。

&lt;表5&gt;「書き言葉コーパス」における連用用法の分布内訳

順接関係およびそれに準じた関係	365	45.7%
逆接関係およびそれに準じた関係	428	53.6%
両義的に解釈できるもの	5	0.6%
合計	798	100.0%

### 3.3. 「書き言葉コーパス」における「せっかく」の連用用法の分布

次の<表6>は、「せっかく」が連用接続節と言い切り形の節で用いられた場合の分布の詳細を示したものである。

&lt;表6&gt;「せっかく」と共起する連用接続節と言い切り節の使用形式の分布

用法	表現形式	形式の大分類	形 式	使用数		割合／ 798
逆接的	逆接的接続形式	ノニ類	ノニ	229		
			ニモカカワラズ	7	236	29.6%
		テモ類	テモ・デモ	96		
			タッテ	4		
			トコロデ	1	101	12.7%
		ケド類	ケレドモ・ケド		16	
		ナガラ(逆接)	ナガラ		13	
		ガ類	ノダガ・ガ		11	
		トコロ類	トコロニ・トコロガ		8	
		モノ類	モノヲ・モノノ		7	
		テ形(逆接)	テ		6	
		その他	中止形(逆)		1	
			トハイエ		1	
			カラトイッテ		1	
			ニ		1	
			ノヲ		1	
			トオモッタラ		1	
	圧縮表現		セッカクダガ	12		
			セッカクダケド	5		
			セッカクダッタ	1		

			セツカクナノニ	1	19	
			小計		423	53.0%
順接的	順接的接続形式	ノダカラ類	ノダカラ	128		
			カラニハ	1		
			以上	1	130	16.3%
		その他の 原因・理由節	ノデ・ワケナノデ	40		
			カラ・ワケダカラ・			
			モノダカラ等	40		
			コトダカラ・			
			コトダシ・コトユエ	5		
			方言（キ、ケン）	3		
			テ	5		
			ノダモノ	8		
			シ	12	113	14.2%
		（ノ）ナラ類	Vルナラ（バ）	14		
			Nナラ	3		
			Vタナラ	2		
			Vルノナラ（バ）	9		
			Vタノナラ	2		
			Vルノデアレバ	2		
			Vタノデアレバ	1		
			Nナノダッタラ	1		
			Vルノダッタラ	3	37	4.6%
		仮定条件節	タラ		2	
			バ		1	
			ト		1	
	状況語		アトデ・トキニ・ツイデニ		5	
	圧縮表現		セツカクダカラ		40	
			セツカクナノデ		13	
			セツカクナラ		3	
			セツカクダシ		1	
			小計		346	43.4%
言い切り			ノダ・ワケダ・コトダ		15	



		ジャナイ (カ)	5	
		Nダ	4	
		ダロウ	2	
		Vル	3	
		小計	29	3.6%
		合計	798	100.0%

### 3.4. 「書き言葉コーパス」における連用用法の分布の特徴

＜表6＞における連用用法の「せっかく」の分布を、接続形式の特徴に基づき整理すると、以下の通りである。

- 1) 逆接関係では、「ノニ」と共起する場合が229例あり、共起関係が顕著である。
- 2) 「ノニ」よりも少ないが、逆条件の「テモ・デモ」も一定数（96例）の共起が認められる。
- 3) 順接関係では、「ノダカラ」節で使用される例が128例あり、共起関係が顕著である。その他の原因・理由節を加えると、計243例（30.5%）となり、原因・理由節でよく使用される。
- 4) 条件節では、「(ノ) ナラ」類の節と一定数（37例）の共起が認められるが、原因・理由節に比べると、その割合は圧倒的に低い。
- 5) 条件節の「タラ・バ・ト」と共起する例は極めて少ない（4例）。

「ノニ」「ノダカラ」は、「既定的」な事態の接続に関わる接続形式である<sup>9)</sup>。「せっかく」と「ノダカラ」の間の顕著な共起傾向については、前稿でも指摘した。次節では、渡辺（2001）の説明と食い違う現象として2節で指摘した問題、すなわち、渡辺が「実現不確実」「未実現」の「仮定表現」とする、「(ノ) ナラ」節と「テモ」節に「せっかく」が使用されているコーパスの例を取り上げ、その特徴についてやや詳しく観察・分析を行うことにしたい。

## 4. 条件節で使用される「せっかく」

順接条件の「タラ」「バ」「ト」節、および「(ノ) ナラ」節に「せっかく」が使用されたコーパスの用例を観察し、分析・考察を行う。

### 4.1. 「タラ」「バ」「ト」節での使用例

「せっかく」が共起するのは「(ノ) ナラ」節に限られるということを指摘した

が、今回調査したコーパスでは、「タラ」「バ」「ト」節に「せっかく」が使用されている例が4例あった。それを以下に示す。

- (1) 折角いい娘を見つけたら誰しも自分の恋人にと願うのが人の常、甘美なワルツ『恋人と呼ばせてヨ』が作られたアメリカは西海岸に、この年「スクリーンの恋人」を大量生産する夢の工場の候補地が発見されている。(柳澤愼一『明治・大正スクラッチノイズ』)
- (2) せっかく綺麗な夜景があれば、その前に友達や家族を立たせての撮影もしたいものです。(園田誠『デジタルカメラ100の技』)
- (3) 米内山委員：私は、別に会計検査院に、これは臭いから検査せいという身分でも立場でもないし、そういう気持ちは毛頭ありませんが、ただせっかく現地まで行きましたら、どういう場所をどういう買い方をしているかを現地で見ていただきたい。(国会会議録)
- (4) 国務大臣(初村滝一郎君)：いまお話がありましたような退職金等の未払いについては、これはせっかく会社更生法が適用されて管財人が決まりますと、労働省といたしましてもこの管財人に対して退職金等の支払いの確保について強く要請をしまいたいと思います。(国会会議録)

(1)～(4)における「タラ」「バ」「ト」の使用は、いずれも逸脱性が感じられる。(1)(2)の「たら」「ば」は、それぞれ「見つけたのなら」「夜景がある(の)ならば」など、「(ノ)ナラ」で言い換えることが可能であり、また言い換えたほうがいっそう自然に感じられる。

(3)(4)は、国会での発言記録の例であるが、「たら」「と」の使用にはかなりの逸脱性が感じられる。(3)では、「せっかく現地まで行くのでしたら」のように、「(ノ)ナラ」相当の表現を使うのが自然である。(4)は、「せっかく会社更生法が適用されて管財人が決まるのですから、それが決まりましたら」といった意図の発言の途中が端折られた場合であると考えられる。ちなみに(3)も「せっかく現地に行くのですから、そこに行きましたら」という発言の途中が端折られたケースと捉えることも可能である。

(1)～(4)は、十分な推敲を経ずに書いた文章や、複雑な内容を考えながら話すような場合に生じた逸脱性をもつ表現と考えられ、「せっかく」は「タラ」「バ」「ト」の条件節では使用できず、使用できるのは「(ノ)ナラ」節に限られると結論づけてよいのではないかと思われる。

#### 4.2. 「(ノ) ナラ」節での使用例

「(ノ) ナラ」については、その形態的変種<sup>10)</sup>も含め、まとめて例を挙げておく。コーパスではここに属する37の例が認められた。それぞれの代表例を挙げておく。

##### [(ノ) ナラ (バ)]

- (5) ロサンゼルスからサンフランシスコへ車で行く方法にはいくつかある。  
けれども、せっかくカリフォルニアを走るなら気分最高のドライブにしたいもの。(JTBパブリッシング『アメリカ西海岸』)
- (6) (前略) 少なくとも義務教育におきましては完全実施というような方向性の中で位置づけられるという努力は、せっかく新しい法人をつくるならばそのぐらいの意欲を持ってやってほしい、こういうふうに私は思っております。(国会会議録)
- (7) 「僕の部屋は汚くて、とても居心地が悪いんだ。せっかく君とすごすのなら、気分のいいところのほうがいい。そう思わないかい？」(小池真理子『蠍のいる森』)
- (8) せっかく軽井沢に行くのなら、梅雨が明けてからとも思ったが、七月の半ばからは会議が続いて休みにくい。(渡辺淳一『失楽園』)
- (9) せっかく才能もって生まれたなら凡人を楽しませてほしいですね♪(Yahoo! 知恵袋)
- (10) でも、せっかくお気に入りの品を買ったのなら、一日でも長く(多く)、そして大切に使う…事に物の価値が出てくると思います。(Yahoo! 知恵袋)
- (11) でもせっかく普通に勉強して30位ならもっと伸びますよ。志を高く持ってください。(Yahoo! 知恵袋)

##### [ノデアレバ]

- (12) せっかく経費をかけてハガキを送るのであれば、お客さま一人ひとりに宛てた「一言メッセージ」を必ずつけ加えたいと私は思います。(杉山栄作『保険営業は顧客満足だけを考える』)
- (13) きょうたまたま法務委員会でも同時刻に審議しておりますのでそちらでも出るかもしれませんが、せっかくつくったのであればもう少しこの通知とかその辺の事務の煩雑さを緩和できる方途がないのか、お伺いしたいと思います。(国会会議録)

##### [ノダッタラ]

(14) [ギフトも交換できる伊勢丹のサービス]

せっかく交換することができるのだったら、そこで言葉のエネルギーを節約してはいけません。(中谷彰宏『なぜあの人はお客様に好かれるのか』)

(15) 楽しくやっていたら、そのままで良いと思いますが、せっかく47名という大編成レベルの部員数なのでしたら、少しは全体的なバランスを考えても良いのではないかと・・・(Yahoo!知恵袋)

### 4.3. 考察

ここで、「せっかく」は「タラ」「バ」「ト」節には用いられず、使用可能な条件節が「(ノ)ナラ」節に限られることの理由について、上に挙げた例に基づき考察しておきたい。

まず、その第一の理由は、「(ノ)ナラ」は、前件・後件の生起順序に対する時間的前後関係の制約がないという点に求められる。前件、後件をそれぞれP、Qで示せば「セッカクPスル(ノ)ナラQ」という構文は、Pに潜在的価値を認め、その価値を実現させるためにとるべき適切な手段をQで述べるといった関係を表す構文である。この場合のP、Qの生起順序は、 $Q \rightarrow P$ という順になる。

(8)を例にとりこの点を説明しよう。(8)は、P「軽井沢に行く」場合、その時期はQ「梅雨が明けてからにしよう」といった意味を表している。仮にこの通り実行するとすれば、時間の前後関係は、「梅雨が明けてから、軽井沢に行く」となり、 $Q \rightarrow P$ の順になる。「(ノ)ナラ」は、前件と後件の生起順序の制約を持たず、 $P \rightarrow Q$ 、同時、 $Q \rightarrow P$ のいずれも可能である。一方、「タラ」「バ」「ト」は、基本的に事態間の因果関係を土台とする条件関係を表すため、 $P \rightarrow Q$ の順序で生起する事態しか表せない。

(8)の「のなら」を「たら」で言い換えると、「せっかく軽井沢に行ったら、梅雨が明けてからにしよう」のような文になり、論理的に意味を成さない文になってしまう。つまり、このタイプの「せっかく」構文では、時間関係の制約を受けない「(ノ)ナラ」の使用が必然的に要請されることになるのである。上に挙げた例では、動詞のル形を「(ノ)ナラ」「ノデアレバ」「ノダッタラ」が受ける、(5)～(8)(12)(14)がこのタイプに属する例である。

「セッカクPシタ(ノ)ナラQ」の形で、Pの述語が動詞のタ形の場合は、二通りの解釈が可能である。一つ目は、上と同様のタイプで、Pが成立した状況で取るべき適切な行動や判断をQで述べるような場合である。もう一つは、聞き手

から情報を受け取った場合に「それが事実なら」といった意味で、Pを事実として仮定したうえで、取るべき行動や判断をQで述べるような場合である。(9)(10)(13)がここに属する例だが、(10)を例にとりこの点を説明しよう。

(10)の第一の解釈は、P「お気に入りの品を手に入れた」という状況において、Q「それを長く、大事に使うべきだ」といった判断を述べるような場合である。第二の解釈は、聞き手の発言Pを受け「あなたがおっしゃる通りなら」といった意味で、Pを事実と仮定した場合の話し手の判断Qを述べるような場合である。どちらの用法も、因果関係を土台とする「タラ」「バ」「ト」では表せない関係で、「(ノ)ナラ」に固有の用法である(蓮沼1985)。

また、「既定性」に関しては、「せっかく」が用いられる「(ノ)ナラ」節は、「既定的」であると捉えてよいと思われる<sup>11)</sup>。「認識的条件文」は条件節が既定命題を表す場合であり、「のなら」はそれを専ら表すマーカーである(有田2007)。また、(8)のように、Pが定まった予定を表す場合も既定性をもつと見なせるものである。これに加え、「(ノ)ナラ」は、前件が事実で後件が反事実を表す、次のような条件文に使用できることも「既定性」という特徴によって説明可能なものである。

(16) せっかく東京に来るのなら、もっと早く連絡してくればよかったのに。

「せっかく」が共起する条件節が、「(ノ)ナラ」節に限られる理由は、「せっかく」構文と「(ノ)ナラ」の表す論理関係の共通性に求めることができる。すなわち、「Pに潜在的価値を認め、その価値を実現するために取るべき適切な行動や判断Qを述べる」といった「せっかく」構文の表すPとQの関係づけは、目的とその価値を充実させるための手段の関係と捉えることが可能なものである<sup>12)</sup>。これは時間的な生起順序から見れば、因果関係とは逆方向の順序であり、このようなPとQの関係づけは、「(ノ)ナラ」によってのみ可能である。

## 5. 「テモ」節で使用される「せっかく」

「せっかく」は、逆接関係を表す節の中で「ノニ」節と取り分け高い共起関係を示すが、それに次ぐのが「テモ」節である。「タッテ」「トコロデ」も「テモ」と類義的な用法をもつので、以下ではまとめて考察する。

### 5.1. 「テモ」の用法分類

「せっかく」が使用される「テモ」節については、やや注意が必要である。「テモ」には、構文・意味の上で区別されるべき複数の用法があり、「せっかく」が

使用されるのは、その一部に限られるからである。ここでは、前田（1993, 2009）と、日本語記述文法研究会編（2008）の「ても」文の分類を紹介し、「せっかく」が用いられる「テモ」節がそのうちのどのタイプなのか指摘しておきたい。

前田によれば、複文の「ても」文は、次の3タイプに分類される<sup>13)</sup>。

①並列条件

（1）3を自乗すると9になる。－3を自乗しても9になる。

②並列・逆条件

（2）結婚すれば悔恨あり。結婚しなくてもまた悔恨あり。

③逆条件

（3）このカメラ、水に濡れても壊れません。

④特殊用法

（4）ご飯を食べてもお酒を飲んでも太らない。（ $V_1$ ても $V_2$ ても）

（5）食べても食べても太らない。（ $V_1$ ても $V_1$ ても）

（6）食べても食べなくても太らない。（ $V_1$ ても～ $V_1$ ても）

（7）誰に頼まれても、私は断る。（不定語＋ても 究極の並列条件）

（8）天地がひっくり返つても絶対にあり得ない。（比喩的 究極の逆条件）

①並列条件は、二つの順接条件が並列される場合で、2番目の文では、「タラ・バ・ト」は使用できず、代わりに「テモ」が使用される。②並列・逆条件は、並列条件の1種と言えるが、条件節の述語の肯否が前後で逆になっている点が①と異なる。③逆条件は、予測される条件・帰結関係に反する関係を表す。④特殊用法は、条件節に複数句の反復、不定語、比喩的な表現が使用される場合で、「いずれの条件でも」「どのような条件でも」という意味を表す<sup>14)</sup>。不定語を含む（7）、比喩的な表現が用いられた（8）のような用法は、それぞれ「究極の並列条件」、「究極の逆条件」とも呼ばれる。

以上は、構文的特徴からの「テモ」の用法分類であったが、日本語記述文法研究会編（2008）では、意味的な基準から「テモ」の用法を5用法に分けている。すなわち「仮説条件」「事実条件」「反事実条件」「一般条件」「反復・習慣」の五つだが、これは基本的には「テモ」の用法の中心である③逆条件（前田1993, 2009）に属する用法を細分化したものと考えられる。それぞれの例を以下に挙げておく。

（10）（たとえ）この時計は水にぬれても、大丈夫だろう。（仮説条件）

（11）（もし）水にぬれていても、この時計なら大丈夫だったろうに。（反事実

条件)

(12) この時計は水にぬれても大丈夫だった。(事実条件)

(13) 海底では水は100度になっても沸騰しない。(一般条件)

(14) 父は天気が悪くても毎日ジョギングを欠かさない。(反復・習慣)

「仮説条件」「反事実条件」は、従属節の条件は本来なら主節の事態を引き起こさないと予想されるのだが、その予想に反して主節の事態が起こることを仮定的に述べたり（例 (10)）、反事実的に述べたり（例 (11)）するものである。これらは「たとえ」「もし」と共起するとされる（これらの語を例文冒頭のかっこに入れそれを示す）。(12) は、前件も後件も事実を表す「事実条件」の例である。(13) は、一般的な予測に反することを表す「一般条件」、(14) は、「反復・習慣」の例である。

## 5. 2. 「せっかく」が生起する「テモ」節の特徴

ここで「せっかく」が使用される「テモ」節が、上の分類のどのタイプの「テモ」なのかについて、考察を加えておきたい。結論を先取りして述べれば、「せっかく」が使用されるのは、③逆条件の「テモ」の中の「反事実条件」以外の用法であると言える。

まず、前田の分類の①並列条件、②並列・逆条件、④特殊用法のどのタイプにも、「せっかく」は用いることができず、使用されるのは③逆条件の「テモ」に限られる。①②④は、複数の条件が並列され、「いずれの条件でも」「いかなる条件でも」といった意味を表すが、「せっかく」は、このような並列的な「テモ」や、帰結を導く可能性が極小であるようなスケール性をもつ条件の「テモ」には使用されない。つまり、「せっかく」が使用されるのは、予想される条件・帰結関係が成立しないことを表す③逆条件の「テモ」に限られるということである。

次に、③逆条件のうち、「せっかく」が使用されるのは「反事実条件」以外の用法であるという点について説明する。「事実条件」「反事実条件」の例でこのことを示そう。「せっかく」は、「事実条件」の「テモ」には使用可能であるが、「反事実条件」の「テモ」には使用できない。以下がそうした例である。

(15) せっかく努力しても、結局、合格できなかった。(事実条件)

(16) \*せっかく努力していても、合格は無理だったかもしれない。(反事実条件)

「反事実条件」の「テモ」は、前件に事実と反する事態を仮定する表現であり、仮定性をもつ。一方、「事実条件」は前件も後件も事実を表す。つまり、仮定的

な「テモ」節では、「せっかく」は使用できないと言える。

「仮説条件」「一般条件」「習慣・反復」の「テモ」節には、「せっかく」が使用可能と言えそうであるが、これについては補足的な説明が必要である。すなわち「せっかく」が使用されるのは、これらの用法において「テモ」節の仮定性が限りなく希薄化した場合であると考えられる。この点を「たとえ」「せっかく」が付加された「テモ」文のニュアンスの相違によって説明しておこう。

(17) a たとえ努力しても, 合格は無理かもしれない。(仮説条件)

b せっかく努力しても, 合格は無理かもしれない。(既定条件)

(17 a) (17 b) は、仮定的意味の強弱という点で、微妙なニュアンスの相違がある。(17 a) は、「たとえ」がなくても、「仮説条件」としての解釈が可能だが、その付加により仮定的意味がさらに強化されていると感じられる<sup>15)</sup>。一方「せっかく」が使用された(17 b) は、これとは対照的に、仮定的な意味が限りなく希薄化し、現実的な状況を条件として提示しているケースであると感じられるのである。この点を考慮し、ここでは(17 b) のような例を「仮説条件」と区別する意味で「既定条件」と呼んでおく。

「せっかく」の仮定的意味の希薄さは、「どんなに」と共起しないという点で、それが可能な「たとえ」と対照的である。

(18) たとえどんなに努力しても, 合格は無理かもしれない。

(19) \*せっかくどんなに努力しても, 合格は無理かもしれない。

「どんなに」は、「たとえ」のもつ「仮定性」の意味や、帰結を導く条件としての可能性の低さをさらに強調する働きもち、互いに矛盾することなく結びつく。一方、「せっかく」は、「たとえ」「どんなに」のどちらとも連続的使用が不可能である<sup>16)</sup>。

以上の観察で明らかなように、「せっかく」は仮定的意味とはなじまず、それが使用される「テモ」節は、仮定的な意味が限りなく希薄な「逆条件」(「一般条件」「反復・習慣」もここに含める)、および「事実条件」であると言える。つまり、「せっかく」が使用されるのは、「既定性」を有する「テモ」節であると結論づけてよいのではないと思われる<sup>17)</sup>。

### 5.3. 「テモ」節での使用例

日本語記述文法研究会編(2008)の用法分類を参考にしながら、「テモ」節に「せっかく」が用いられたコーパスの代表的な例を観察しておく。

【既定条件】



まず、「既定条件」の「テモ」に「せっかく」が用いられた例を挙げておく。「セツカクPテモQ」という文型をとり、潜在的なPの価値の実現を妨害・阻害するような要因の存在により、予想・期待に反する結果Qが生じるような場合の用法である。

- (20) [福寿草の鉢を見かけ] (前略) 気持が動いたけれども、うちの植木溜のような庭には、せっかくさげて帰っても、植える場所がない。(庄野潤三『鳥の水浴び』)
  - (21) 大型ヘリコプターは概してローターによるダウンウオッシュが強烈で、このためせっかく洋上の遭難者に接近しても、相手を押しやってしまうことになる。(江畑謙介『艦載ヘリのすべて』)
  - (22) さらにもうひとつ、身体的な合併症をおこして観察室や一般室のベッドに寝込んだとき、せっかくおむつがとれていた患者さんでも元の状態に戻ってしまうことは、先に述べた通りです。(帯木蓬生『安楽病棟』)
- 次のように、「テハ」「バ」「ト」などの条件文や、理由文と「テモ」が組み合わさった「複々文」(小矢野1997c)の例も多い。
- (23) せっかくよいものを選んで食べても、よくかんで食べなくては、栄養が十分に体に吸収されません。(水野葉子『オーガニックな生活』)
  - (24) ただし、せっかく力をつけても効果的に使えなければ、その力が私利をはかることに使われ、かえって国は弱くなる。(守屋洋『商君書』)
  - (25) 折角為替(円安)で儲かっても、価格の下落によって損をしてしまうと、差し引き0となる。(堀篤『預金封鎖であなたの資産が消滅する』)
  - (26) それにせっかく親しい人をお招きしても、料理を作ったり、周囲に気を配っていておしゃべりができず、残ったのは疲労感だけだった、というのでは楽しくありませんね。(佐藤よし子『英国スタイルの家事整理術』)

以上の例では、「せっかく」の代わりに「たとえ」を用いることが不可能でもないような例もある。しかし、文脈を考慮すると、「たとえ」での言い換えが不自然になる例がほとんどである。つまり、いずれも既定的事態として話し手に把握されていると見なせるケースであり、「既定条件」と「事実条件」の「テモ」の連続性を示唆するものである。

#### [事実条件]

「事実条件」の「テモ」の例を挙げておく。(27)(28)は主節がル形の例、(29)(30)タ形の例である。

- (27) [旧ライブドア社長の堀江貴文氏に関する話題]

多分、本当のライブドアプレーンは苦勞してると思うよ。せっかく戦略立てても知識の無い社長がテレビでベラベラ思いつきでしゃべって、全て台無しにしてくれんだから (Yahoo! 知恵袋)

- (28) (前略) なかなかたいへんな仕事だ。それに、せっかく荷物を届けても、よろこんでくれないお客もいたりしてガッカリ。がんばろうと自分に号令をかけながら、キキは落ちこんでしまう。(風見隼人と東京アニメ研究会『スタジオジブリのひみつ』)
- (29) [山口智子がテレビに出なくなった理由についての質問への回答]  
唐沢寿明が「山口智子の旦那」と言われない為に、仕事を控えたと言っています。でも控え過ぎたから、せっかくまたドラマに出ても大して話題にならなかったですね。(Yahoo! 知恵袋)
- (30) とくに、単純に教師同士の共通理解といっても学級を基本として枠組みを守っているかぎり、自分のクラス意識が強く、せっかく複数担任にしても、教師二人分の力が発揮できるどころか、かえって一人分の力も発揮できないことさえあったと調査結果の報告がなされています。(小田豊『新たな幼稚園教育の展開』)

#### [一般条件]

典型的な「一般条件」といえるような例は見当たらなかったが、強いて挙げれば、以下のような例がそれに当たると言えそうである。

- (31) (前略) 血液中の薬効成分の濃度(血中濃度)を保つためには定期的な、一日一〜三回の服用が必要となります。薬効成分の濃度が低いと、せっかく飲んでも薬の効果は期待できなくなってしまうからです。(渡辺知明『胃腸病』)
- (32) せっかくバクテリアが繁殖してきても頻回に水を交換してしまうことで減ってしまいかえって逆効果です。(Yahoo! 知恵袋)

#### [反復・習慣]

次は、過去において繰り返し起こった出来事を表す「反復・習慣」の例である。

- (33) いつになく顔色がよく、目にも力強さがみなぎっている布美子に、鳥飼は驚かされた。そのころはもう、布美子の気分がすぐれない日が多くなっており、せっかく訪ねて行っても、ほとんど話を聞けずに帰って来ることが度々だったからだ。(小池真理子『恋』)
- (34) しかし、農業恐慌のなかで娘を身売りさせなければならぬほどの時代です。農家も町村も貧しいため、せっかく経済更生計画をつくっても、

資金がなくて計画倒れに終わるところが多かったのです。(岸康彦『興亡の国を支えて』)

[タッテ・トコロデ]

最後に「テモ」と類義的な「タッテ」「トコロデ」の例を一例ずつ挙げておく<sup>18)</sup>。

(35) (前略) この田と畑との評価価額の違いが三対一、要するに田の方が全国平均三倍であると聞いているが、そのとおりかどうか。だから、これ三倍だったらせっかく転作したたつてもとどおりのやつかけられたら全然意味ないんです。(国会会議録)

(36) 近年 I T (情報技術) が普及し、営業でも多種多様なデータを採る会社が増えてきましたが、まだ売上、回収などの基本的なデータしかないという会社も少なくありません。そのため、せっかくマネジャーが目標数字を設定したところで、データが社内のコンピュータから出てこないため、実績との対比ができないというケースも起き得ます。(山口裕『営業マネジャーの実際』)

## 6. 事態の既定性と「せっかく」構文

「せっかく」は仮定的表現には使用できないという渡辺(2001)の説明に対する疑問から、本稿では大規模コーパスにおける「せっかく」の使用実態の調査を行ない、「せっかく」が条件節の「(ノ)ナラ」節と「テモ」節に用いられている場合について、やや詳しい考察を行なった。この節では、「せっかく」の使用された連用節のもつ「既定性」について手短かに考察を加え、本稿を締めくくことにしたい。

「せっかく」が「既定性」と強い有縁性をもつことは、その分布からも証明できる。すなわち、コーパスにおける「せっかく」の連用用法の798例のうち、「ノニ」節で使用された例が229例、「ノダカラ」節で使用された例が128例出現していたこと、また仮定条件節よりも原因・理由節での使用が圧倒的に多いということは、それを示す強力な証拠といえる<sup>19)</sup>。この点で、「せっかく」がPに確定表現、確実表現を要求するとする渡辺の指摘は、直感的であるにせよ、その本質を正しく言い当てたものと言えるだろう。

本稿では、「既定性」との関係が不明確な「テモ」節に着目し、やや詳しい観察を行った。「テモ」が「仮定的」「事實的」の2用法をもつことは従来から指摘されてきたが、本稿では、「せっかく」が用いられた「テモ」節は、仮定性が希薄化し、限りなく「事実条件」に接近した「既定条件」であるということを指摘

した。

「既定性」という用語に対し、本稿では特に厳密な定義づけは行わず「命題の真偽が確定している」といった意味で使用してきた。これと類義的な用語としては「レアリティ」「確定的」「事実的」など、さまざまな用語がある。本稿のアプローチは、用語は緩い規定にとどめ、むしろ使用されている言語形式の量的・質的両面から「既定性」の特質を探ろうとしたものである。その結果、「せっかく」は「既定性」の高い従属節で使用される傾向が強く、「せっかく」が使用される「(ノ)ナラ」節、「テモ」節は、「既定性」を有する条件節であることが確認できた。しかし、「既定性」という概念を厳密に定義しているわけではないので、このままでは循環論に陥る危険性がある。

冒頭でも指摘したが、副詞の「どうせ」は、「タラ」「バ」「ト」の条件節では使用できないという点で「せっかく」と共通する特徴をもつ。だが、「どうせ」がこれらの条件節で使用できない理由は、「せっかく」の場合とは異なり、別の説明が必要であることが予想される。「どうせ」と「せっかく」の相違や、「既定性」という概念の精密化は、今後も引き続き取り組んでゆきたい課題である。

#### 注

- 1) 条件を表す「ト」は、文末に意志や働きかけ表現をとることができない。「バ」は、動作動詞を受ける場合には、働きかけの表現が使用できないという制約をもつ。「ト」は「バ」よりもいっそう強い文末表現の制約を受けるため、(1)(2)の例からは、あらかじめ除外してある。「ナラ」は、「ノ」の有無で大きな意味の違いが認められない場合が多いため、「(ノ)ナラ」と表記する。
- 2) 有田(2007)は、命題の真偽が定まっているという意味を「既定性(Settledness)」という概念で捉え、これに形式的な定義を与えている。本稿は、事態の真偽が定まっていると話し手に把握されているような事態を「既定性」をもつ事態と捉え、特に厳密な定義は行わずにこの用語を用いることにする。
- 3) 工藤(1982)は、(I)(II)のような複文での使用を基本とする「せっかく」の特性に着目し、叙法副詞の分類において「C 条件-接続の叙法」の「譲歩～理由」に「せっかく」を位置づけている。
- 4) 本稿が調査資料として使用した次のコーパスの略称である。これを短く「コーパス」と呼ぶ場合もある。国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ(2009年度版)
- 5) <表1>の「つきそい・あわせ文」「つきそい文」とは、それぞれ「複文」「従属節」を指す。<表2>「まさめの関係」「うらめの関係」とは、それぞれ「順接関係」「逆

接関係」に該当する。

- 6) <表 3>では連用用法の合計が316になっており、<表 1>の数値315と合わない。「せっかく」が二つの接続形式と共起している場合を、それぞれ1回ずつの使用としてカウントした結果である可能性がある。
- 7) 「旧用法」とは、「努力して事にあたるさま」（「明鏡国語辞典」）を表す、次のような「せっかく」の用法である。  
 (例) (前略) 私どもは安保条約を踏まえながら、この武器輸出三原則とどのように調整してこれに対応するか、いませっかく検討中でございます。(国会会議録)
- 8) 「せっかく」の総出現数は1455だが、<表 4>では、合計使用数が1456になっている。これは、「せっかく」の後に、二つの類似の従属節が繰り返し用いられているケースをそれぞれ1回の使用としてカウントしているためである。
- 9) 前田 (2009: 212注1) では、「のに」文は、主節だけでなく、従属節にも事実的なリアリティが要求されることを指摘している。
- 10) 「(ノ) ナラ (バ)」「ノダッタ」は、それぞれ「ノダ」のバ形、タラ形に、「ノデアレバ」は「ノデアル」のバ形に該当する。名詞述語に続く場合は、「N |ナラ (バ) /デアレバ/ダッタ|」のように、「ノ」を介さずにも接続可能である。例 (11) (15) は、名詞述語の例だが、後者は名詞述語の後に「ノ」が使用された例である。「ノダ」の条件形の形態の変種については、野田尚史 (1994) を参照。
- 11) 「のなら」が使用される「認識的条件文」および「既定性」の概念についての詳細は、有田 (2007) を参照されたい。
- 12) 目的・手段の関係を表す「(ノ) ナラ」は、「～する際、場合」といった意味に接近する。(蓮沼1985)
- 13) 前田 (1993, 2009) および、前田氏との個人的な交流で得られた情報を総合的に整理したものである。
- 14) ④特殊用法の(4)～(7)のような構文を、藤井 (2002) は「テモ亜形構文」と呼んでいる。
- 15) 小矢野 (1997b) は、「たとえ」が共存していない事実的な「しても」に「たとえ」が共存すると、仮定条件的な「しても」の関係を表すようになることを指摘している。
- 16) 「たとえ」はテモ文の仮定性を強化する働きをもつのに対し、「せっかく」は、反対に現実性を付与する働きを持つと考えられる。こうした正反対の意味もつため、この二つを連続して使用すると容認不可能な文になる。  
 (例) \*たとえせっかく努力しても、合格は無理かもしれない。
- 17) 「たとえ」と「せっかく」が対照的な振る舞いを示す理由については、小矢野 (1997b) の説明が示唆的である。小矢野によれば、「たとえ」は、「うらめ的な仮定条件づけのつきそい文に先行して極大仮定条件づけといった話し手の主体的なかかわりを明示する機能」(小矢野 1997b: 83) をもつとされる。
- 18) 「タッテ」は過去の1回の出来事を表す「事実条件」を表しにくい点、「トコロデ」は、「事実条件」は表さない点で、「テモ」とは異なる。(日本語記述文法研究会編2008)

- 19) 工藤 (1997) は、「幸いに」「あいにく」など、評価成分を扱った研究だが、「評価成分は、実現・確定した事態に対して評価を下すのが基本である」とし、「条件節の例も、いったん実現・確定したものと仮定するのであるから、あっても矛盾しない」と述べている。そして「条件の中でも「-とすると」「- (の) なら」「-としても」など、判断の成立を仮定するものはあるが、出来事の単純な仮定の例は、少ないのではないかと思われる」と述べている。(工藤 1997: 68) 本稿の観察にとっても、極めて示唆的な指摘である。

## 参考文献

- 有田節子 (2005) 『『どうせ』『いっそ』の分布と既定性』『大阪樟蔭女子大学日本研究センター報告』13, pp.1-14
- (2006) 『『どうせ』の意味と既定性』上田功・野田尚史編『言外と言内の交流分野 小泉保博士傘寿記念論文集』, 大学書林 pp.33-45
- (2007) 『日本語の条件文と時制節性』, くろしお出版
- 石神照雄 (1982) 『様相副詞『セツカク』と構文構造』『信州大学教養部紀要 第一部 人文科学』16, pp.1-13
- 今西利之 (2002) 「副詞『どうせ』についての覚え書き」『熊本大学留学生センター紀要』6, pp.1-16
- 川端善明・仁田義雄編 (1997) 『日本語文法 体系と方法』, ひつじ書房
- 工藤 浩 (1982) 「叙法副詞の意味と機能—その記述方法をもとめて—」国立国語研究所『研究報告集』3, 秀英出版 pp.45-92
- (1997) 「評価成分をめぐる」川端・仁田編 (1997) pp.55-72
- 言語学研究会・構文論グループ (1986) 「条件づけを表現するつきそい・あわせ文 (四) —その4・うらめ的なつきそい・あわせ文—」『教育国語』84, むぎ書房 pp.49-68
- 小矢野哲夫 (1997a) 「規定語『せっかく』の構文的機能」加藤正信編『日本語の歴史地理構造』, 明治書院 pp.195-208
- (1997b) 「うらめ条件—接続のモダリティ副詞—『たとえ』の使用条件—」川端・仁田編 (1997) pp.73-87
- (1997c) 「副詞『せっかく』の用法」『日本語・日本文化研究』7, 大阪外国語大学日本語講座 pp.1-16
- 佐野裕子 (2008) 『『場合』に関する考察—接続助辞用法を中心に—』『日本語文法』8巻2号, 日本語文法学会 pp.141-155
- 田窪行則・笹栗淳子 (2002) 「日本語条件文と認知マッピング」大堀壽夫編『認知言語学Ⅱ: カテゴリー化』(シリーズ言語科学3), 東京大学出版会 pp.135-161
- 日本語記述文法研究会編 (2008) 『現代語文法6 第11部複文』くろしお出版
- 野田春美 (1997) 『「の(だ)」の機能』くろしお出版
- 野田尚史 (1994) 「仮定条件のとりたて—『〜ても』『〜ては』『〜だけで』などの体系—」『日本語学』13-9, 明治書院 pp.34-41
- 蓮沼昭子 (1985) 『『ナラ』と『トスレバ』』『日本語教育』56, 日本語教育学会 pp.65-78

- (1987)「副詞の語法と社会通念—『せっかく』と『さすがに』を例として」小泉保教授還暦記念論文編集委員会編『言語学の視界』, 大学書林 pp.203-222
- (2011)「条件文と理由文の相関—『(ノ)ナラ』と『ノダカラ』を例に—」『日本語日本文学』第21号, 創価大学 pp.1-18
- 藤井聖子 (2002)「所謂『逆条件』のカテゴリー化をめぐって—日本語と英語の分析から」生越直樹編『対照言語学』(シリーズ言語科学4), 東京大学出版会 pp.249-280
- 前田直子 (1993)「逆接条件文『～テモ』をめぐって」益岡隆志編『日本語の条件表現』, くろしお出版 pp.149-167
- (2009)『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』くろしお出版
- 渡辺 実 (1980)「見越しの評価『せっかく』をめぐって—国語学から言語学へ—」『月刊言語』第9巻2号, 大修館書店 pp.32-40
- (2001)『さすが! 日本語』, (ちくま新書) 筑摩書房

#### 調査資料出典

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ (2009年度版)

(はすぬま・あきこ, 本学教授)